

# アウトドアの成長効果の検討

—アウトドア・プログラムとサッカースクールの比較から—

江戸川大学非常勤講師 遠藤大哉

<キーワード：アウトドア、アンダーマイニング、内発的動機づけ>

## 1.目的

日本は豊かな自然に恵まれる自然大国でありながら、アウトドアスポーツが全国民に解放されるアウトドア大国にはなっていないのが現状である。その原因として安全の問題、環境破壊の問題、指導者やプログラム開発の不足といった問題等が横たわっている。東京オリンピックよりサーフィンとロッククライミングが正式採用された今だからこそ、日本のアウトドアレクリエーションに目を向け、身近にあり、またその周辺に広がる自然環境を最大限に活用し、自然との共生を実現す街づくりを推し進めていくことがレガシーのひとつになるのではないだろうか。そのためには、アウトドアの安全性やレクリエーションの場としての価値、あるいは子どもの成長効果などを国民にもっと理解してもらうことが課題である。

そこで、本研究は、アウトドアの教育効果について、一般スポーツ教育であるサッカー教室を比較対象として検討し、その特徴を明らかにすることを目的とする。

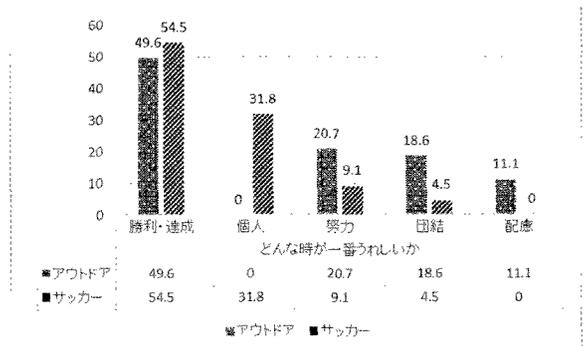
## 2.方法

アウトドアの効果を検討するためには、単発的あるいはイベント的に行う事業で成果が見られにくい。そこで、継続的かつ教育的意図を持って行うアウトドア・プログラムの特徴と効果を明らかにするためにNPO法人バディ冒険団主催のバディキッズ・アドベンチャー・チャレンジ・プログラム（以下バディキッズ）の参加者および保護者を対象として、江戸川大学後藤ゼミの共同研究としてアンケート調査およびインタビュー調査を実施した。また比較対象としてNPOサッカースクール「小菅サッカークラブ」の参加者及び保護者を対象にアンケート調査を実施し、比較対象のデータを取得した。

## 3.結果と考察

### (1) 参加者がうれしいとき

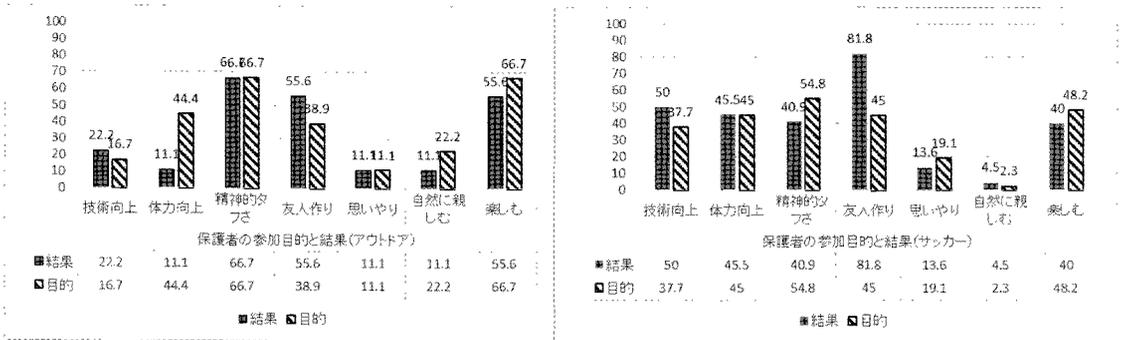
バディキッズ参加者と小菅サッカークラブの参加者に「どんな時がうれしいですか」と尋ねたところ、「個人」「努力」「団結」「配慮」の項目でアウトドアとサッカーで差が認められた。「個人の栄光」の項を選択したものはサッカーが31.8%に対しアウトドアは0%であった。「努力」を選択した者がアウトドアでは20.7%に対しサッカーは9.1%であった。「弱い子や下手な子への配慮」の項を選択したものはアウトドアが11.1%であるのに対しサッカーは0%であった。



（右図）このことから全体的に見て、アウトドアの方が個人で何かを獲得した、という時よりも、全体で努力をし、皆で何かを達成した時に、より「喜びを感じる」傾向が伺えた。また、サッカーが外面的な勝利やゴールといった要素に惹かれがちなのに対し、弱い子への配慮などアウトドアでは内面的な要素を指向している傾向が

伺えた。アウトドアの体験は、ゴールや勝利等外発的な報酬にとらわれず、体験そのものを内面的に楽しむことが考えられた。つまり、アウトドアでは、外発的な報酬に依存することによって、内発的動機づけが低くなってしまいうアンダーマイニング現象とは逆の非アンダーマイニング効果が得られることが考えられた。

## (2) 保護者の参加目的と結果の評価



バディキッズの保護者と小菅サッカークラブの保護者に対して参加理由と参加しての結果について尋ねた結果、サッカーは技術（目的 37.7%、結果 50%）、や体力（目的 45.5%、結果 45%）、及び友人作り（目的 45%、結果 81.8%）がテーマとなっており、アウトドアでは精神的タフさ（目的 66.7%、結果 66.7%）、楽しさ（目的 66.7%、結果 55.6%）、友人作り（目的 38.9%、結果 55.6）が保護者の大きなテーマとなっていることが示唆された。（上図）

## ③保護者の視点から見たアウトドアとサッカーの特徴の違い

バディキッズの保護者のインタビュー結果より、アウトドアの特徴をサッカー教室や野球、ラグビークラブ等他のスポーツ教室との対比を左図にまとめた。保護者の視点から、指導者の存在の重要性とプログラムの中に自由度をもたせることが重要であることが示された。危険の伴う自然の中で安全管理と自由度のバランスによって子どもの主体性が育まれること考えられた。

アウトドア・プログラム	サッカー教室など
コーチングは間接的（危機管理をしながら黙って見守る、お膳立て）	コーチングは直接的（技術、戦法について直接指示。上からの指示に従って指導）
精神的な成長と心の教育	技術向上
体と心のバランスよく人間形成できる	サッカー職人
自由を満喫できる	集団スポーツのいいところを経験できる
自分で判断する領域が大きいかつ重要	自主判断より指導に忠実
自分が主人公の1人である	エースが誰かが自然に決まる
主体的（自分で考え、自分から動く）	
恐怖体験、恐怖を乗り越える楽しさ	
楽しいだけじゃない	
仲間からの刺激、感動の共有	
親の教育観と合致	

## 4. 結論

アウトドアでは、外発的報酬への依存度が少なく、外的報酬よりも達成したときの喜びや楽しさが大きな報酬となって内発的な部分での自然的発生的な成長を促す効果がある可能性が示唆された。